

5月5日は子供の日！ “キッズの日”は“キズケアの日”

琉球大学大学院 医学研究科 形成外科学講座 石原 昌平



形成外科は体表面全体を診療対象とする外科の一領域です。その診療内容は外傷・熱傷、先天異常、腫瘍、悪性腫瘍に関連する再建、瘢痕・ケロイド、難治性潰瘍、美容外科など広範囲に及びます。体表面の先天的・後天的疾患を機能的・整容的に治療することで患者さんのQOL (quality of life) の向上を目指しています。

形成外科の一領域である創傷外科の分野では近年、創傷被覆材や局所陰圧閉鎖療法、成長因子製剤、人工真皮など全く新しい材料や装置が開発され改善され続けています。その影響のために創傷外科の治療は以前のものとは比べると様変わりすることになり、学問としての創傷外科学がますます重要になってきました。

このような背景のもと、日本形成外科学会のサブスペシャリティの学会として2008年7月に日本創傷外科学会が設立されました。

その使命は、急性・慢性の創傷からケロイド・肥厚性瘢痕まで含めた外表の創傷全般の診断と治療の専門医を育てることと、病態解明の研究成果に基づいた新治療法の開発を進め、さらなる治療成績の向上を図り、社会に貢献することです。

社会に貢献するためには、日本創傷外科学会専門医が創傷治療の第一線を担わなければならないことはもちろんですが、創傷治療の重要性を広く国民に啓発することも重要な使命です。

そこで日本形成外科学会・日本創傷外科学会ではマスコットキャラクターの「なおるん」を先頭にして5月5日を「キッズの日はキズケアの日」と制定し、外傷（ケガ）などによってできるキズ、またその傷跡（きずあと）の治療・診察の啓発活動を行っています。（図1）

形成外科は傷を治す様々な治療法に加え、愛護的 (atraumatic) な手術手技を習得しています。これらの専門知識・技術を駆使して傷をできるだけ早く、より目立たない傷跡にすることを目指して治療を行っています。

「キッズの日はキズケアの日」というだけあって、元気な子どもに怪我はつきものです。

私事です最近3歳の娘が2日連続で両膝を盛大に擦りむいて保育園から帰ってきたことがありました。

娘の膝にキズアトが極力残らないように全知識・技術を総動員して治療に当たりました。（といってもお風呂でキズを洗ってワセリンを塗布したのみですが今回はこれがベストだと判断しました）

そろそろ上皮化が完了するという時になって再度膝を擦りむいてきました。

再びキズを作ってきたときは「オーッ！」と叫んでしまいましたが、子どものキズの治療には根気がいると再確認できた良い経験でした。

普段他科の先生方からも子どもが自宅だけでしたけどどのような治療・後療法を行ったらキズアトが残りにくいかな等の相談をよく受けます。

軽微なキズであれば自宅でも対応可能な場合もありますが、受傷機転・創部の状態によって処置方法は全く異なりますので、対応に迷うようなキズや治りが悪いキズはお気軽に形成外科にご相談ください。



図 1